

病害虫 防除だより

No. 284

平成27年3月26日

イネ育苗中の適正な温度管理等に努めましょう！！

気象台予報によると4～5月の気温は平年より高い見込みですが、数日の周期で変わると予想されます。苗が5℃以下の低温や30℃以上の高温にあうと苗立枯病が発生しやすくなります。温度管理によって病気の発生が大きく変わりますので、適正な温度管理を行いましょう。また、育苗箱は必ず洗浄、消毒したのを使いましょう。

1) 温度管理

出芽期間・・・病気の発生を防ぐため30℃を超えないようにする。

育苗期間・・・夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないようにする。

- ・気温が高いと細菌病が発生しやすいので、快晴時には早めにハウスの換気を行う。
- ・夜間の温度が低いと、カビによる立枯病が発生しやすいので、保温に努める。

2) 水管理

- ◎天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。
- ◎河川や湖沼、ため池の水には病原菌がいるので、灌水には水道水を使用する。
- ◎ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。

3) 床土管理

- ◎病原菌に好適な環境にしないよう、pHは4.5～5.1程度とし、厚播き・多肥は避ける。

4) 防除薬剤

対象	薬剤名	使用時期	使用濃度	使用量/箱*	使用回数
フザリウム菌 ピシウム菌 ムレ苗防止	タチガレン液剤	播種時及び発芽後	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
	タチガレエースM液剤	播種時又は発芽後			1回
リゾプス菌	ダコニール1000	播種時から緑化期 但し、播種14日まで	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
			1000～2000倍	1L灌注	
トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し、播種14日まで	400～600倍	0.5L灌注	2回以内
			800～1200倍	1L灌注	

※30cm×60cm×3cm

◎ もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病は、発生後の防除薬剤はないので、高温、多湿を避ける。特に5月中旬移植苗は高温期の育苗なので注意する。



ピシウム菌による苗立枯病（ムレ苗）



フザリウム菌



苗立枯細菌病



褐条病

☆最新の農薬登録情報(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p301.jsp>)を確認して下さい。

農業試験場

病害虫防除室

連絡先 0776(54)5100(代)